

うえました。天気の良い日をねらって、葉の上から小便をかけてみました。

すると、小便をかけた苗の方が、かけなかった苗より、色もこくなり、勢いもよくなりました。阿波あわの農民の言ったことは、ほんとうだったのです。

与次右衛門は、ナスのこやしに小便がよいならば、ほかの作物さきもちにはどうだろうと考えました。与次右衛門の考えは、一つのところにとまっています。ウリ、大根、白菜はくさい、ニンジン、ゴボウなどにもためしてみました。こやしをかける場所も、葉にかけたり、くきにかけたり、苗と苗の間に穴あなをあけて流しこんだり、——いろいろとためしてみました。こうしてためしてみた作物は、三十数種類にもなりました。

与次右衛門は、ためしてみたり、観察したりした結果を記録しておき、次の年になると、それを役立てていきました。こうしたやり方は、現代の進んだ科学でとりあつかうような、実験じっけん的な方法をとり入れたやり方をしていました。